

平成30年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
農産・畜産部門

海外需要を見据えた有機栽培てん茶生産と団地化による経営発展

○氏名又は名称 有限会社小磯製茶（代表 小磯 雅一）

○所在地 鹿児島県南九州市

○出品財 経営（茶）

○受賞理由

・地域の概要

南九州市は、鹿児島県薩摩半島の南部に位置し、温暖な気候と広大な畑地を活かして茶・露地野菜等の生産が盛んである。特に、茶は市町村別面積が全国第一位を誇る産地である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

小磯氏は、平成10年に経営を継承し、有機栽培茶園の団地化により、栽培面積を57ha（H22）から94.6ha（H28）まで大きく拡大している。規模拡大とてん茶生産に伴い、新たな雇用が創出され、若手を中心に常時雇用者が倍増するなど、地域活性化にも貢献している。また、平成27年には（株）藍を立ち上げ、てん茶の加工販売を行っている。

・受賞者の特色

（1）産地の高低差を活かした生産

平野部と山間部の標高差と早生・晩生品種の組み合わせによって作期分散し、摘採期間の拡大を図るとともに、茶工場の年間稼働期間を従来の1.5倍に延長し、生産量の増加と労働力の平準化を図っている。

（2）海外需要を見据えた有機栽培てん茶生産と団地化

海外での抹茶需要が伸びていることや、害虫による品質低下が起りやすい有機栽培において害虫が少ないという山間部の特徴を生かして、抹茶の原料となるてん茶の有機栽培に取り組んでいる。平成23年から5年かけて、集落での話し合いを重ね、約40haの有機栽培茶園の団地化を実現させた。

（3）女性・若手の活躍と人材育成

夫婦間で家族経営協定を締結するとともに、子育て中の女性が働きやすい勤務体系の実現や、山間部にもトイレ等を設置するなど女性に配慮した取組を行っている。また、常時雇用者14名のうち11名が45歳未満であり、定期的に技術研修を行うなど、人材育成にも努めている。

・普及性と今後の発展方向

国内外の需要動向を見極め、集落での話し合いを重ねながら有機栽培茶園の団地化を実現した取組は、茶生産における大規模経営のモデルケースとなっている。今後、高齢者の茶園について作業受託等ができる仕組みづくりを進める予定であり、自らの経営発展はもちろん、地域の発展を目指した生産を引き続き行っていくことが期待される。